

- 大阪府の森林は、北から摂津、生駒金剛、和泉葛城の三山系からなり、大阪平野を取り巻く形で位置しています。森林率は、全国の67%に比べ31%と全国最低ではあるものの、人工林率は49%と全国平均の41%を上回っています。また、森林の98%を民有林が占め、その内の約9割が私有林となっています。
- 民有林では、全般的にスギ、ヒノキの人工林の多くが未だ間伐等の施業が必要な育成段階にありますが、保育施業対象外となる12齢級（56～60年生）以上の割合も増加してきており、資源としての本格的利用が可能となる段階に入りつつあります。

一方、府域内の国有林は1千haと僅かながら、奥地脊梁地帯から中山間、都市近郊に広く分布しており、それぞれの国有林のおかれた自然的・社会経済的特性を反映し、国土の保全、水源の涵養、保健・文化・教育的な利用の場として、森林の多面的機能の発揮に寄与しています。

- 大阪府との地域林政連絡会議では、共通の地域課題を持つ箕面市も参画し、平成26年度の地域課題の解決に向けた取組の総括を行い、平成27年度の民国連携の取組に向けて、野生鳥獣被害対策とナラ枯れ被害対策の推進について、意見交換を行いました。
- 国有林が所在する市町村の地域課題や共通課題について、各種会議等の場を利用して幅広い情報収集を行っており、それぞれの市町村が抱えている鳥獣被害対策等の地域課題について、民国が連携した取組を展開しています。



(大阪府・箕面市との地域林政連絡会議の様子)

森林病虫害の防除

【課題】 ナラ枯れ被害対策の推進（継続）

【取組状況】

- ・ 箕面市内のナラ枯れに関する情報交換会に参画し、民有林、国有林におけるナラ枯れ被害の情報共有をした。
- また、ナラ枯れ処理方法に関する情報について、箕面市内を中心に活動しているボランティア団体から提供を受けた。今後も引き続き連携して取り組んでいくことや、定期的な情報交換会の開催を確認した。

【成果と今後の課題】

- ・ 民有林と国有林がナラ枯れ被害と対策等に関する情報を共有することにより、迅速な対策のあり方の検討ができた。
- ・ 国有林内で発生した被害木については、引き続き、早期発注に努め伐倒駆除等の対策を予定。



（情報交換会の様子）

鳥獣被害の防除

【課題】 野生鳥獣被害対策（継続）

【取組状況】

- ・ 明治の森箕面自然休養林管理運営協議会が主催する分科会に参画し、被害防止対策等について意見交換を実施。
 - ・ 27年度に高槻市及び大阪府猟友会高槻支部と有害鳥獣駆除に係る協定書を締結し、連携してニホンシカの個体数管理を実施。
 - ・ 大阪府立環境農林水産総合研究所と連携し、北摂地域内の国有林におけるシカ生息密度を把握するための糞塊調査を合同で実施。
- ・ 箕面国有林における獣害対策の現状を関係者に知ってもらうために、シカ被害対策に係る現地視察を開催し理解を深めた。

【成果と今後の課題】

- ・ 箕面市、大阪府猟友会、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会と連携し、箕面森林ふれあい推進センターが主体となり、くくり罠等によるニホンシカ等の捕獲を実施し、個体数管理の成果等について、広く情報発信を検討。
- ・ 一般市民が参加できるフォーラムにおいて、箕面森林ふれあい推進センターを中心に、シカによる食害の現状、個体数管理事業等の取組を発信し、ニホンシカ捕獲対策等の必要性を広く府民等へ周知。
- ・ 高槻市等との有害鳥獣に係る協定に基づき、本山寺山国有林でニホンシカ3頭捕獲。楊梅山国有林においてニホンシカ5頭の捕獲を実施。
- ・ 今後、広域的な捕獲が課題。



（くくり罠設置の様子）



（シカ被害対策に係る現地視察の様子）